



大阪南東ブロック  
西成・住之江支部  
はつらつ大阪合同会社 新川 健一

この度、西成の地域自慢をさせていただき新川です。西成で生まれ育ちました。現在は花園本通商店街で喫茶店と訪問介護センターを併設しています。喫茶店は父が長らく営んでいますので、地域自慢をするにあたり、歴史なことを今回あらためて聞きました。

**由緒正しき歴史ある街**

西成の地名は奈良時代、小学校名にもなっていた弘治は室町時代の年号に由来します。西成区北部は、西成郡今宮村として栄え、同じく西成郡勝間村（今の玉出）とともに大阪城下の村々に米や野菜を供給する「畑場八ヶ村」と呼ばれていました。勝間村の南瓜は大阪の伝統野菜「こつまなんぎん」として知られ、生根神社では冬至に「こつまなんぎん祭」が行われ、参拝者には「こつま南瓜蒸し」が振る舞われています。

また西成区中部にある天神ノ森と呼ばれる森から湧き出る水の良さに着目したのが千利休の師にあたる武野紹？。森を切り開いて建てた茶室は、豊臣秀吉が住吉大社の参拝の帰りに立ち寄って休憩したことで、「殿下の茶屋」といわれ、今でも「天下茶屋」という地名が残っています。



江戸時代の西成区

**戦時中の軍隊の町**

日露戦争の際、天下茶屋に俘虜（ふりょ）施設があり、天下茶屋駅前のショッピングモールには石碑があります。石碑には「ハーグ条約を順守し、俘虜を手厚く取り扱った」と刻まれており2014年の除幕式では在大阪ロシア総領事館の参事官も出席しロシアと区との交流を深めるきっかけとなりました。



天下茶屋俘虜収容所跡地の記念碑

**西成の国際化**

新今宮駅周辺では、日雇い労働者の簡易宿泊所だったホテルが、外国人観光客の安宿として改装し大人気です。うちの商店街の近くでも、大きな荷物を持ったバックパッカーやファミリーをよく見かけるようになりました。区役所では英語のガイドマップを作成しPRしています。

というわけで、名前の由来から最近の国際化までいろんな西成を紹介させていただきました。歴史色と国際色の混じり合う西成は、ある意味面白い雰囲気を経験できるかもしれません。一度散策されてはいかがでしょうか。



喫茶カブチョ店内